

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 生野区  
学校名 田島南小学校  
学校長名 今垣 清彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・田島南小学校では、第6学年 66名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

## 国語

「知識及び技能」の平均正答率は69.7%と、大阪府・全国と近い水準です。特に、話し合いの記録の形式や内容の理解、会話中の情報連付けなど、基本的な読み取りや聞き取りの能力は比較的良好な結果となっています。

国語の全体平均正答率は54%と、大阪府・全国を大きく下回ります。特に「思考力、判断力、表現力等」の正答率が56.6%となっています。資料を読み解き、根拠に基づいて自分の考えを文章で表現する記述式問題では、正答率が39.4%、無解答率が40.9%となっています。

## 算数

正答率について、基本的な図形の面積の求め方が71.2%、棒グラフからの情報読み取りが77.3%となっています。また、解答時間が十分であったと感じる児童の割合が83.3%となっています。

全体平均正答率は46.5%と、大阪府・全国を大きく下回ります。特に「思考・判断・表現」の正答率が39.4%となっています。異分母分数の加法計算とその概念理解について正答率は13.6%、無解答率は28.8%となっています。複数の情報から問題解決する能力や、表からの情報抽出能力も同様となっています。

## 理科

水の結露の仕組み、ヘチマの花のつくりや受粉、乾電池の直列つなぎといった基本的な知識に関する問題では、7割前後の正答率を示し、大阪府や全国の平均に比較的近い水準でした。

理科の全体平均正答率は49%と、大阪府・全国を6~8ポイント下回ります。特に「エネルギー」「粒子」「生命」といった領域の正答率が低いです。実験結果から結論を導き、その理由を表現する記述式問題では正答率が24.2%、無解答率が27.3%となっています。

## 分析から見えてきた成果・課題

## 教科に関する調査より

## [国語]

国語では「知識及び技能」の平均正答率が69.7%であった。特に、話し合いの記録の形式や内容を適切に理解する能力や、話し合いの中から情報を関連付けて理解する能力は、大阪府や全国の平均とほぼ同水準の正答率(69.7%~77.3%)を示しました。聞き取りや話し合い内容の把握といった基本的なコミュニケーション能力が一定程度身についている。

しかし、全体平均正答率は54%と、大阪府や全国を大きく下回っており、特に「思考力、判断力、表現力等」の平均正答率(56.6%)に大きな課題が見られる。児童の「国語の勉強は得意か」という肯定的な回答も39.7%と低く、苦手意識が強いことがうかがえる。漢字の知識・技能にも課題があり、例えば「あつい日」を漢字で書き直す問題の正答率は37.9%に留まり、無解答率も16.7%と高い。また、資料を読み込み、根拠に基づいて自分の考えを文章でまとめて表現する記述式問題では、正答率が39.4%と低く、無解答率が40.9%と非常に高いことが最大の課題である。

## [算数]

算数では、五角形を分割して面積を求める基本的な考え方方が一定程度身についており、正答率は71.2%であった。また、棒グラフから項目間の関係を読み取る能力も比較的良好で、正答率は77.3%であった。学力調査の解答時間については、「時間が余った」または「ちょうどよかった」と回答した児童の合計が83.3%と、大阪府や全国より高く、時間配分への適応力が比較的良好であることが示されている。

一方で算数の全体平均正答率は46.5%と、大阪府や全国を大きく下回っており、特に「思考・判断・表現」の平均正答率(39.4%)に大きな課題を抱えている。児童の「算数の勉強は得意か」という肯定的な回答も41.4%と低く、苦手意識が強い傾向がみられる。複数の情報から必要なものを選び、問題解決する能力が不足しており、例えば「ピーマンとブロッコリーの重さを求める」問題の正答率は15.2%と著しく低い。異分母分数の加法計算とその概念理解に深刻な課題が見られ、「1/2+1/3の計算」では正答率13.6%、無解答率28.8%と非常に高く、共通する単位分数の理解も低い。さらに、表から特定の条件に合う情報を正確に読み取る能力も正答率19.7%と著しく低くなっている。

## [理科]

理科では、児童の勉強への強い興味関心や、将来の科学技術分野への高い意欲が顕著で、「理科や科学技術に関係する職業に就きたい」と肯定的に回答した児童は48.3%と、大阪府や全国を大幅に上回っている。基本的な知識の理解と応用は比較的良好で、水の結露や植物の生殖、乾電池の直列つなぎといった問題では、大阪府や全国とほぼ同水準の正答率(60.6%~72.7%)を示している。

一方で理科の全体平均正答率は49%と、大阪府や全国を下回っている。特に「エネルギー」「粒子」「生命」といった領域の正答率が大阪府・全国に比べて低い。記述式問題への取り組みにも課題があり、「最後まで解答を書こうと努力した」児童は63.6%に留まりました。実験結果を基に結論を導き出し、その理由を表現する「思考・判断・表現」の能力の正答率は24.2%と低く、無解答率も27.3%と高い。顕微鏡操作のような具体的な実験技能や、科学的な根拠に基づいた現象の予測・説明能力にも課題が見られ、正答率はそれぞれ33.3%、40.9%と低い。

## 質問調査より

本校の児童は、先生が自分の良いところを認めてくれていると感じており(96.5%)、普段の生活で幸せな気持ちになることが多い(94.8%)と回答している。また、困っている人を積極的に助けようとする気持ちが非常に強く(98.3%)、いじめはどんな理由があってもいけないことだと全員が認識(100.0%)しており、人の役に立ちたいという高い意欲(100.0%)も見られる。

一方で「自分には良いところがあると思う」と肯定的に回答した児童は65.6%に留まり、大阪府や全国の平均より約21ポイント低い結果であった。

また、思考力・表現力には複数の課題がある。自分で学び方を考え工夫できている児童は70.7%で、府や全国より約10ポイント低い。授業で自分の考えを工夫して発表できている児童も58.6%と、約10ポイント低い結果であった。総合的な学習での探究活動に積極的である児童も67.2%と、約12~15ポイント低い状況である。特に、ICT機器を使った情報整理(43.1%)やプレゼンテーション作成(50.0%)の能力は、府や全国より約26ポイントも低いという顕著な課題が見られる。また、国語・算数・理科の記述問題で最後まで解答しようと努力した児童も、府や全国より約15~21ポイント低い状況である。

これらの結果から、本校では児童が自信を育み、自ら考え、その考えを様々な方法で表現する力を高めることが今後の重要な

## 今後の取組(アクションプラン)

- ・「深い学び」を促す授業改善 知識の習得だけでなく、自ら考え、判断し、多様な方法で表現する力を育む授業を推進します。
  - ・自己肯定感を育む心の教育 児童一人ひとりの個性や努力を認め、成功体験を積み重ねることで自信を育み、他者を尊重し多様な意見を受け入れる心を養います。
  - ・情報活用能力の育成 現代社会に不可欠なICTリテラシーを向上させるための教育活動を計画し、系統的に指導する。
  - ・家庭と連携した学習文化の醸成 家庭学習や読書活動の重要性を啓発することで、自律的な学習習慣の定着を支援します。
  - ・多様な背景を持つ児童へのきめ細やかな支援 家庭の言語環境の多様性にも配慮し、個別の日本語指導の充実や、多文化を理解し尊重する教育を推進します。
- これらの取り組みを通じて、児童が自信を持って主体的に学び、未来を切り拓く力を育んでいきたい。

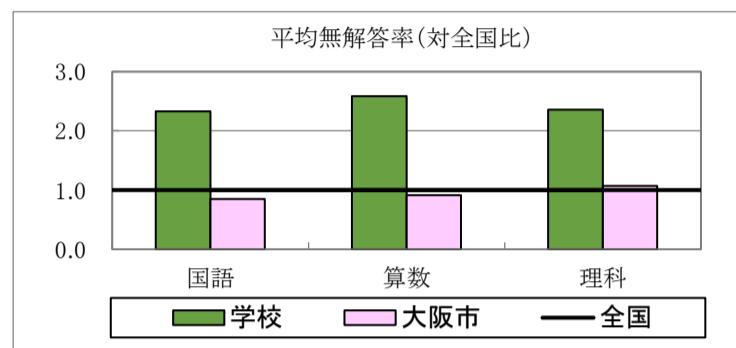
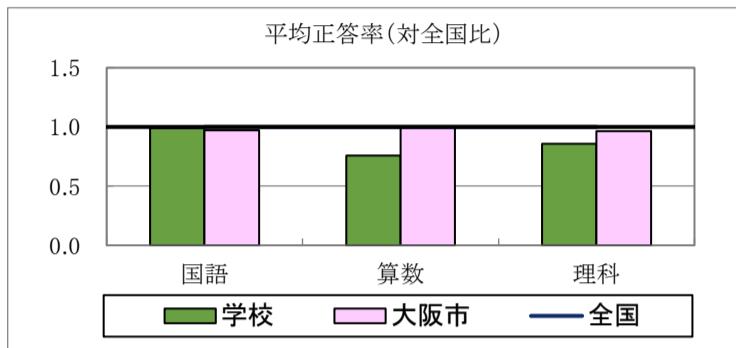
## 【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	66	44	49
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	7.7	9.3	6.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



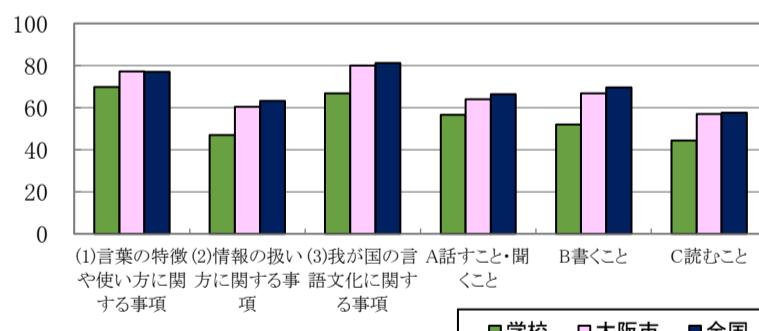
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	69.7	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	47.0	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	66.7	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	56.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	52.0	66.7	69.5
C 読むこと	4	44.3	56.9	57.5

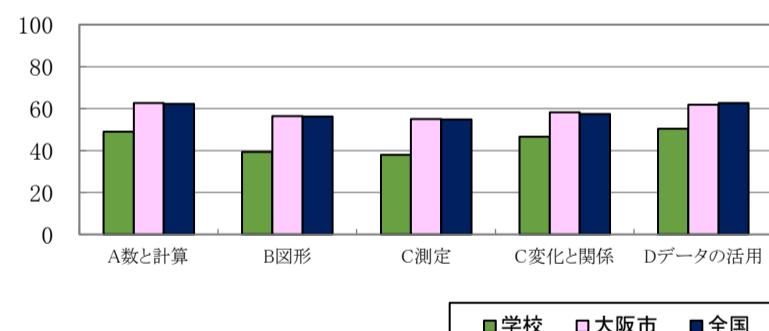
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	48.9	62.7	62.3
B 図形	4	39.4	56.4	56.2
C 測定	2	37.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	46.5	58.2	57.5
D データの活用	5	50.3	61.9	62.6

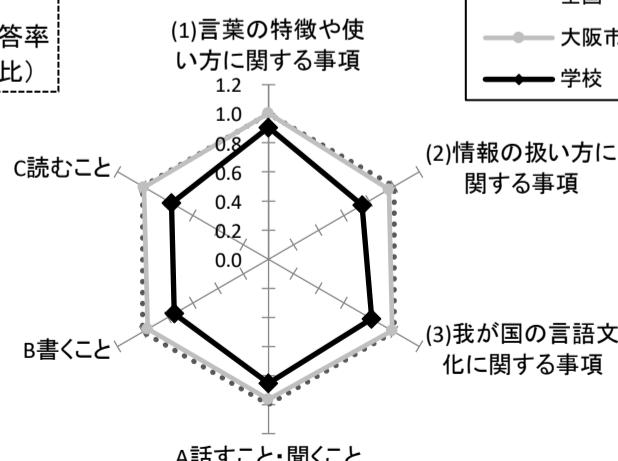
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



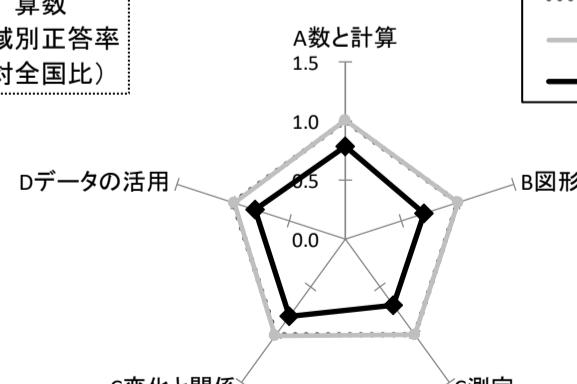
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

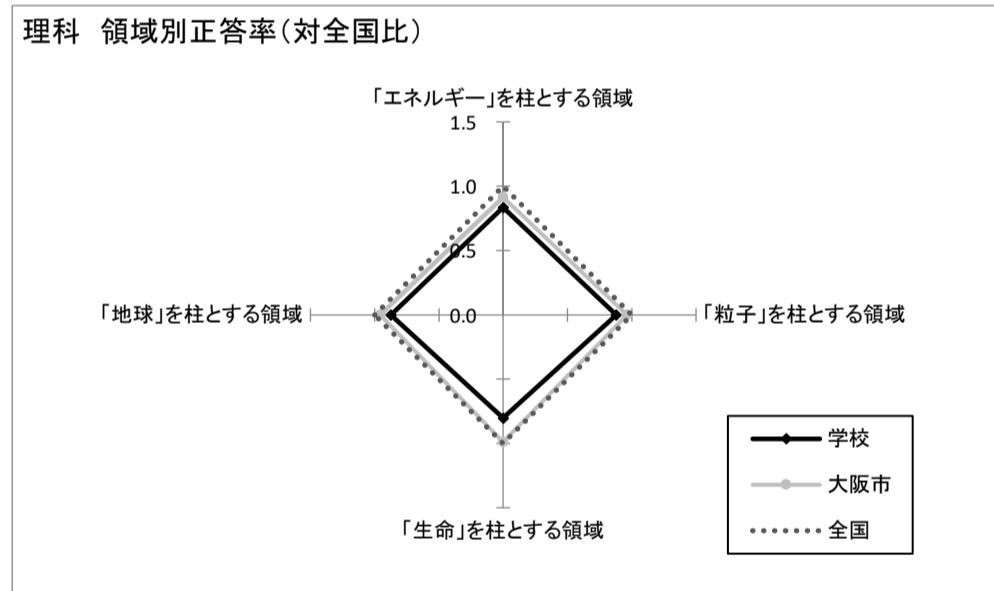
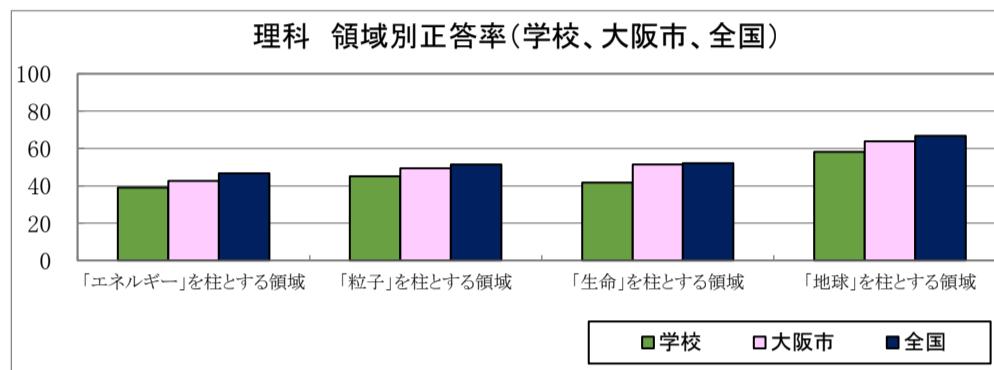


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

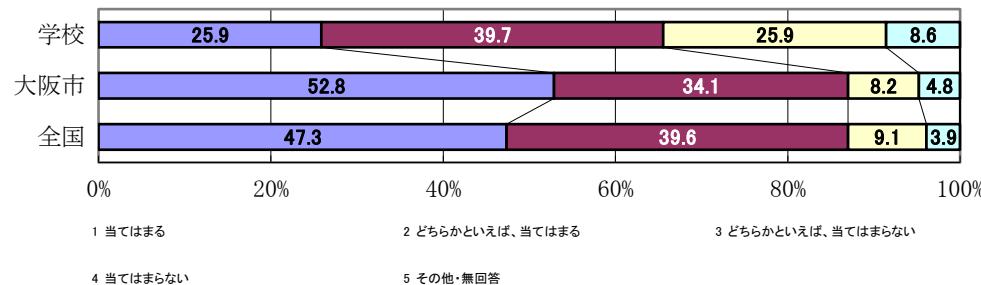
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.0	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	45.2	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	41.7	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	58.3	63.8	66.7



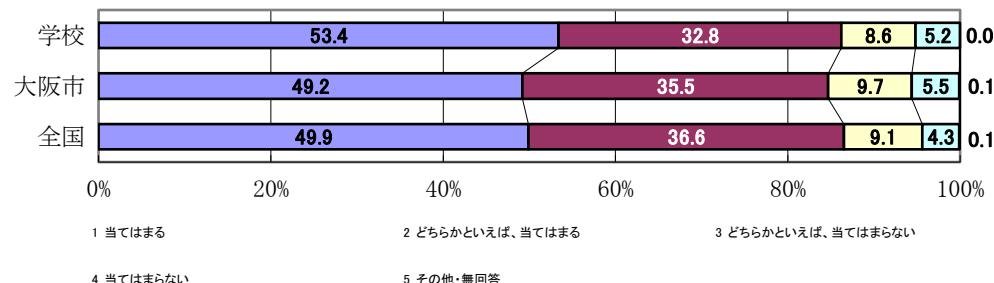
## 児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

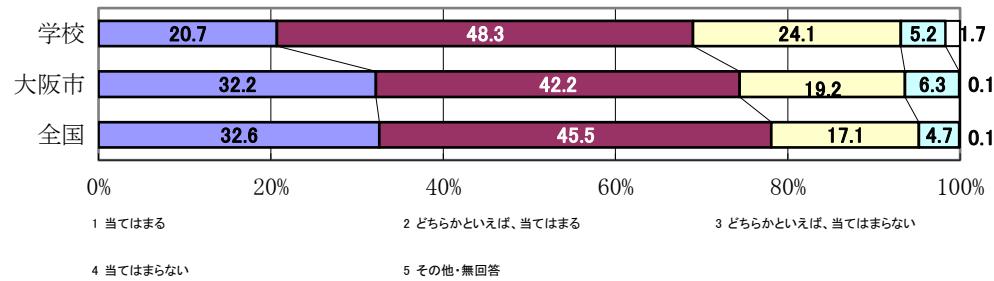
質問番号
質問事項
5
自分には、よいところがあると思いますか



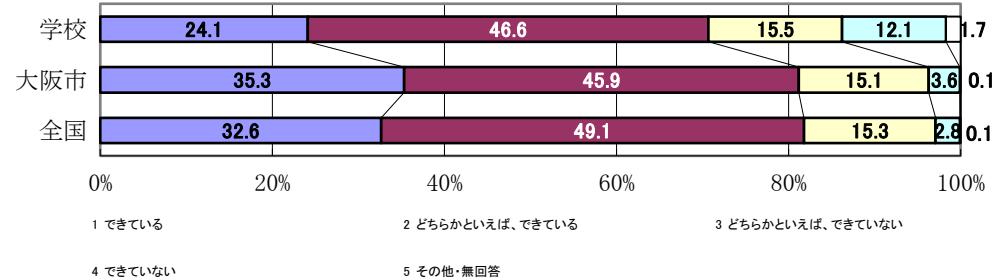
12
学校に行くのは楽しいと思いますか



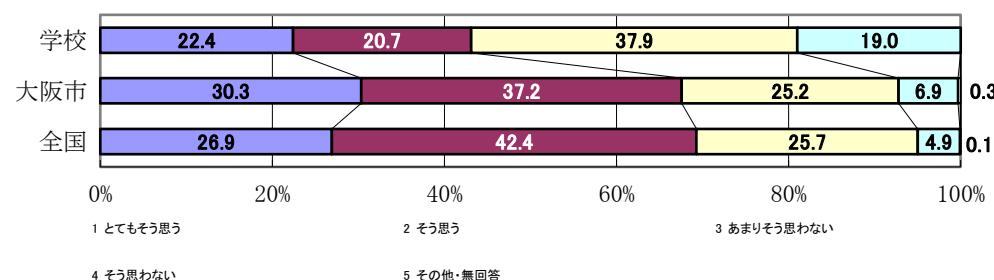
13
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



16
分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



74
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか



## 学校質問より

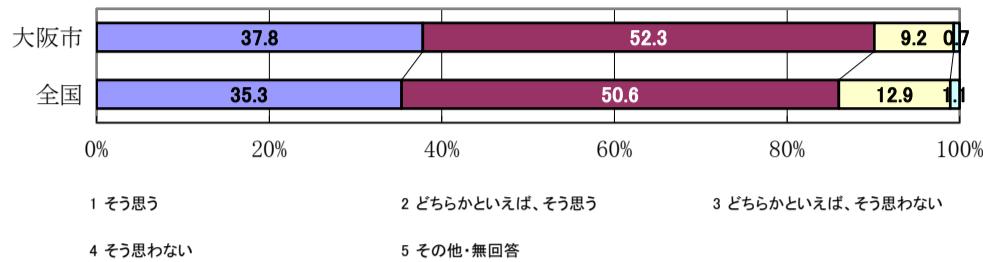
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

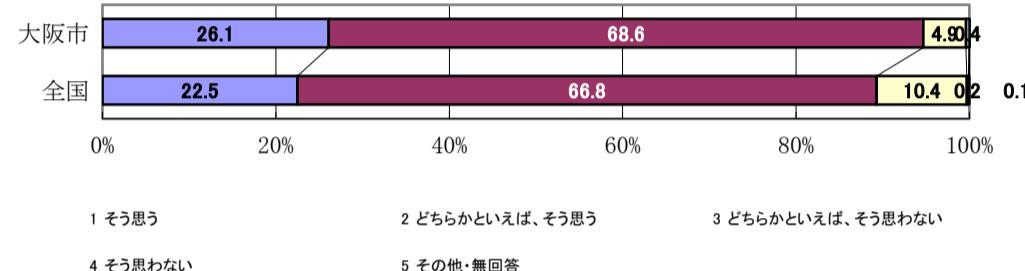
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

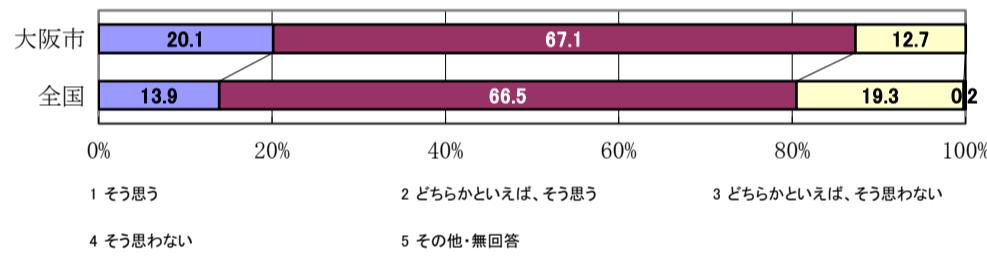
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

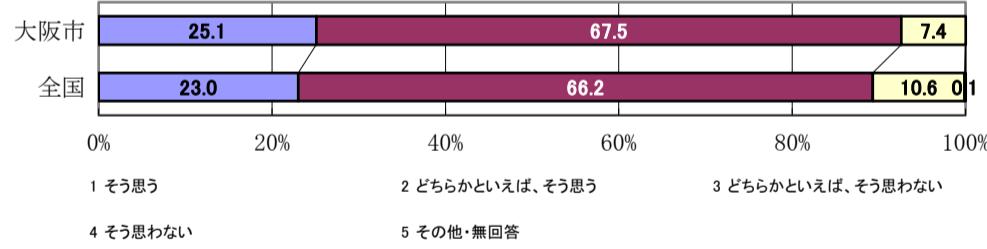
学校 「どちらかといえば、そう思わない」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

